

無知
むち

ジ
メ
リ
ぬ

ちゃん
の

性感

ム
ツ
サ
ー
ジ

R-18

成人向
For Adult Only

オレマツ
マツサージ

「ここが話に聞いてた
マツサージ店ね
あまり気が乗らないけど
マスターのスズメだし
断るのも悪いわよね」

「いらっしやいませ
はじめての方ですね
こちらのベッドに
おかけください」

「ふーん、男がやるのね…
まあいいわ
適当に終わらせて
さっさと帰りますか」

「でははじめさせて頂きます
リラックスしてください
痛いところや
気になるところはないですか？」

「そうね、しいて言うなら
肩が凝るかしら
あとは腰回り…」

「なるほど…お客様ほど
立派なお胸ですと…
おっと失礼…
女性では胸の重みによる
肩こりに悩む方は多いんですよ
今日はそちらを重点的に
やらせて頂きますね」

「お願いするわ」

ぬぎ

「んっ…んっ…」

少し触り方が気になるけど
力強いし
マッサージも悪くないわね…

「ふふっ…どうですか
私のマッサージは…
女性から評判なんですよ」

「御託はいいから
さっさと進めて…」

グッ
グッ
グッ

「失礼いたしました…
では腕をあげてください
腋や胸の横周辺も
マッサージしていきますね」

「ん…そんな所までやるの?」

「ご安心ください
これもマッサージですから
肩の凝りをほぐすのに
必要な施術なんですよ」

「そっなの…?
まあいいわ、さっさとやって」

「失礼いたします」

んっ…んっ…
男に腋や胸回りを
触られるのって変な感じね…
なんだか落ち着かないし

ゆさっ!

ゆさっ!

ふふ…お客様
やはり胸の重みでかなり
凝っておられる様子…

ちよつとツ!!
あの…胸は…

これは直接マッサージして
凝りを解消したほうが
良さそうですね

「ん…っ
…あっ…♡」

もみっ♡

「安心ください
マッサージですから
リラックスマスして頂かないと
マッサージの効果は薄れますよ」

「そ、そうなの…?
マッサージなら仕方ないわね
んっ…んっ…あっ♡」

とはいえ
男の人におっぱい
触られるのって
恥ずかしいわね…

「んあッ…やあっ♡
そんなに…揉みしたいちゃ
…あっ♡」

もみもみ

それになんだか
触り方がイヤらしい…
でもただのマッサージなんだから
気にしちやダメ…

「ふふっ、では少し強めに
マッサージしますよ
痛かったら言ってください」
「気持ちよく感じるのは
マッサージが効いている証拠です
そのまま身を委ねてください」

「そ、そうなの?
あっ…んっ…あッ♡
でも…声が出て…
恥ずかしい…♡」

もにゅ♡

もにゅ♡

「おや、ごちんごも
硬くなってしまってますね
マッサージュしなくて……」
♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

「やあ♡
そこは…乳首♡
…ああん♡」

どうして…
おっぱいでこんなに
気持ちイイなんて…
「あつあつ♡ダメツ
なんかきちゃうツ…♡」

「♡……♡」

はあはあ…♡

何今の…凄く…
気持ちよかった…♡

「ふふっ
マッサージュは気に入って
頂けたようですね」

ひん

ひん

「では次は腰周りを
やっつけていきますね…
うっ伏せになってください…」

やだ…この格好…
たぶんパンツ見えちゃってる…

「…お客様のぉっしやる通り
腰も少し凝ってますね…」

でも相手の人は真面目に
マッサージしてくれてるだけ
なんだから
変な意識持ちっちゃだめ…

むいっ

むちっ

じっ

あっ

「専用のマッサージ液を
使いますね…」

「んっ…んっ♡
…あっ…♡」

「痛いところは
ないですか…?」

「だ…大丈夫よ…
んっ…♡」

ふとももの裏やお尻まで…
こんな所まで男の人に
触られてるなんて
恥ずかしいすぎる…

「…その触り方…
んあ…♡」

おん

あっ

あっ

んっ

んっ

んっ♡ちゅ♡ちゅ♡

「んっ…んっ…♡」

「状況や感じたことをそのまま声に出してくださいよりマッサージの効果が高まります」

「そ、そうなの…? …じゃあ…」

「お尻と腰、ふとももをマッサージされて…恥ずかしいのに…なんだか股間が熱くなって…んっ♡♡触り方も段々イヤらしくなって…指がお尻や股間へと近づいて…あぁッ…そんな所ッ♡」

「ふふっ…そのまま続けてください」

んっ♡

んっ♡

んっ♡

「は…はい…たくましい指が…私の股間へと近づいて…んっ♡♡ギリギリ私の…に触れないようにイヤらしく這い回って…あッ♡♡下着の上から…あッ…あッ…私の股間を……広げたり閉じたり…何度も繰り返して…♡」

「ああ…ッ♡直接見られてないのに恥ずかしい…ッ♡♡あぁッ♡それイヤらしいの…♡もっ…欲しくなっちゃう…♡」

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

「ではそろそろ
直接触っていきますね」

「ああッ…そこ触っちゃッ
やだ…そんな優しく…
上下に擦っちゃッ…ツツ
あッあッ…あッ♡」

「ふふっ…
ほら…感じたことを
声に出してください…
股間部分はおまんここと
言ってくださいね」

「わ…私の…
お…おまんこが…
先生の指で…
イヤらしくイジられて…♡」

もう片方の手で…
私の腰を…胸を…
身体中這い回るように
マッサージして…♡

「イヤらしい手つきで
くちゅくちゅつて
おまんこを…
円を描いたり擦ったり…
何度も何度も…♡」

「ああ…ツ♡
凄く…気持ちイイの…ツ♡
マッサージも…
おまんこイジられるのも…
…気持ちイイツ♡♡♡」



自然と私は
先生とキスをしていた…
とろけた頭で男を求め…
身を委ねる…

「ん…ちゅ…♡
…ん…♡」

ちゅ♡
やだ…こんなの…
イケないのに…
でも…気持ち良くて…
幸せ…♡

「くちゅ…ちゅっ♡
あっ…ん…ん…んはあ…♡」

しゅ♡
しゅ♡

しゅ♡
しゅ♡

しゅ♡しゅ♡しゅ♡

段々と指の動きが
激しくなり
イヤらしい音が
部屋中に響く…

「あっあっあっ…♡ダメッ♡
おまんこそんなにしゅ♡…
なんか…キチャウ…あッ♡」

「安心して
そのままイッて
ください」

「ああ…♡イクッ♡
…イクッ♡ああ…♡
あああああッ…♡♡♡♡

ひゅ♡

ひゅ♡!

数日後

「ありがとうございます
またご来店して
くださったのですね」

「せっかく勧められたから
もう少しくらい通わないと
悪いと思っただけよ!」

じわっ

とは言いつつも
また来てしまった…
あの日のマツサージを
思い出すと身体が火照って…
アソコの疼きが抑えられない!…♡

ではこちらへ…
これをお飲みください
身体が温まり
マツサージ効果が促進される
作用があります

「くっ…
確かに身体が温まる
気がするわ!」

ぷっ

「さらに効果を
高めるために
目隠ししますね」

「……………」

見えないと
何されるかわからなくて
ドキドキするわね

男は私の身体を
指でなぞるように
優しく触れてきた

わわっ

びんっ♡

肩…首すじ…
背中…おへそ…ふともも…
どこを触れられても
身悶え…イヤらしく
身体を震わせる…

いつの間にか
私は男のされるがままに
感じ…喘いでいた

「…んっあっ…♡
…それダメツ…♡
…やあ…ん…あっ…♡
…はあん…あツ…♡」

「んっ…んっ♡
あっ…そんな…
…優しい触り方ツ♡…はあ♡
…あんツ♡…ん…あっ…♡」

目隠しをされ
目が見えないコトもあって
指が触れる度に
私の身体は敏感に反応する…

びんっ♡

あっ

んっ

んっ

あっ

んっ

…もじもじ…

「あの…先生…
…その…お手洗いに…」

「ご安心を…こちらに
バケツを用意しました
生理現象を観察するのも
マッサージの一環ですので…」

もじもじ

「そうなの…?
恥ずかしいけど
先生が言うなら…」

んっ…
おしっこする所を
見られるなんて…
思ってたより
恥ずかしいわね…

…じー…
んっ…
でも…視線を感じると
ドキドキして…

びびり…♡

「ぎやつ…♡
あつ…そんな…ダメツ…♡
…いま…おまんこ触っちゃ…♡
…ああツ♡」

ヒキッ♡

あ♡

「ああ…だめ…♡♡♡」

「しゃー…
チロロチロロチロロ…」

「やあ…恥ずかしい…♡♡♡」

「ぶるるっ」

「ちゅんちゅんちゅん」

「ふふっ…健康的な
おしっこですね…」

「やあ…言わないで…♡♡♡
ダメ…おしっこまらない…♡♡♡
あっ…ん…はあああ…♡♡♡」

「んんん」
「んんん」

「やだ…おしっこしながら
キスするなんて…♡♡♡
…あつ…でも
舌からめながらするの幸せ…♡♡♡
もつとキスしてたい…」

「ちゅん」

「ちゅん♡」

「専用のマッサージ器具
使いますね」

「んあああ…ツ♥
なにこれ…ふるふる震えて…♥
…んはあ…あんっ…♥
…気持ちイイ…ツ♥」

「ああ…ツ♥
…おまんこに入れちゃ…
あんっ♥…あっ…んあっ♥」

「失礼します…」

「ひいっ♥
そこはお尻…ツ♥

指でほじほじしちゃ…ああ…♥
ダメツ…力が入らない…んっ♥
…あっあっ…あっ…♥
…どうして…お尻ほじられるの…
…凄くイイ…♥」

「ふふっ…
良い顔をしていますよ…」

「イヤ…いま見ちゃ…♥
やあ…恥ずかしい…♥」

おまんこと乳首にくわえ
お尻ほじられながらの
濃厚キス…♥
…なんて気持ちイイの…♥
…こんなの絶対クセになっちゃうっ♥

スポスポ…

「ああ…あツ♡
…気持ちイイツ♡
全部気持ちイイのも…♡
もっとおも…もっとおも…♡」

…♡…♡…♡
♡…♡…♡
♡…♡…♡

「ああツ…♡
ダメツ…ダメツ…♡
気持ち良すぎて…♡
…イッチャウツ♡」

ビクビク♡
ビクビク♡
ビクビク♡

「こんな気持ちイイコト
されちゃったら…
…帰ってから…また…
一人でシチャウ…♡」

「はあはあ…♡
凄く良かった…♡
あつ…まだ余韻が残って…
…んっ♡…あ…♡」

トロトロ

♡
♡
♡

一週間後…

「どうですか…
マッサージュおちんぼ様の
感触は…」

「あつあつ…ツツ…イイです…
奥までイヤらしく擦られて…
あああ…凄くイイのお♡
もつと…もつと突いてえ♡♡」

「あたま沸騰しちゃうツツ
おちんぼ…♡
おちんぼ好きイ…ツツ♡」

「あ…
では少し激しく
なりますよ…」

「あああつ…あツ♡
…気持ちイイ…ツツ♡
熱くて硬いのが…
私のおまんこから
出たり入ったり…♡」

「蹂躞されてる感じが
たまらないのお…♡
…おちんぼで私の
恥ずかしいおまんこ…♡
いっぱいマッサージュしてえ…ツツ♡」

おちんぼ、おちんぼ

おちんぼ



「そろそろ
射精しますよ…」

「びびるんんんっ♡♡♡」

「ひぎィ…ツ♡♡♡」
「ああ…ツ…あ…♡♡♡」

初の膣内出しに
未知の快感で
脳が焼かれる…♡

「ナニコレ…♡
熱くて…凄く
気持ちイイのが奥に…♡♡
…頭真っ白になっちゃうツ♡
…あああ…これ好きィ…♡」

ひん

ビクビク

ぞん♡

ぞん♡

「はあはあ…♡
先生…今の…
膣内出しセックス…
犯されてる感じで…好きです♡
もっと…
今の激しいマッサージ…
もっとお願いします…♡」

いつの間にか私は
おちんぼマッサージの
快感に溺れ…毎日のように
マッサージ店を訪れるように
なっていた…

（あ）

（あ）

（あ）

（あ）

一ヶ月後…



「はあはあ…♡
先生…♡
今日は…どんな
マッサージして
頂けるんですか…♡

発効日 2019年12月29日
コミックマーケット 97



サークル ミグミグ荘
dokkoi7045.blog63.fc2.com/

発行者 **どっこい みぐみぐ**

Twitter @DokkoiMigu

印刷所 (有)スズトウシャドウ印刷
www.suzunet.co.jp/index.html

24

※18歳未満の閲覧、所持は法律で
禁止されております。
無断転載、データ化、ネットへの
アップロード厳禁デス(=ω=)

